



火産霊神社夏祭り

祭神は火産霊神。昔、高鍋町がたびたび火災に遭うので、その災難を逃れ町の安全を願うためにお社が祇園に安置されていたのを、現在の下町に移すようになりました。町民は火の神様として崇め、また親しみを込めて荒神さんと呼び、2日間にわたって盛大に行われる夏祭りを楽しみます。



鵜戸神社夏祭り

祭神は鵜草葺不合命。鵜戸神宮の分霊をまつるとも伝えられています。1日目はステージイベントが行われ、蚊口地区はとてにぎやかになります。また、2日目は子ども神輿と大人神輿が区内を練り歩きます。その夜の、神輿を担ぎ社に入ろうとする者たちと、それを阻止しようとする者たちの駆け引きは大変勇壮で、大きな見どころとなっています。

地域で守り、 まつってきた氏神さま

高鍋町には町民に親しまれている氏神さまがおられます。それぞれ特長のある4つのお祭りは、町民が楽しみにしている行事です。



八坂神社夏祭り

祭神は素戔鳴尊、櫛稲田姫命。慶長13年(1608)、高鍋祇園社が建立され、藩主より神領、祭典料、社殿費が寄進されました。農業、厄除、開運、国民和合、縁結び、福の神としてご神徳があり、町民からは祇園さんとして親しまれています。

2日間にわたって行われる夏祭りでは、地区の氏神さまとして子ども神輿などが区内を練り歩き、夜店が並ぶなど、にぎやかな祭りとなります。



立花神社夏祭り

祭神は天鏡石国鏡石天津彦火瓊々杵命。本社は霧島神宮の分霊をまつっている社で、天正年間(1575年頃)にはすでに社殿があったと伝えられています。1日目は太鼓台の神輿に子どもが乗って太鼓をたたきながら街中を練り歩き、2日目には子どもと大人の神輿が出て、一層のにぎわいを見せます。



町 民が大切な歴史的な文化財、民俗文化財として保護、継承してきたものに、持田古墳群と高鍋神楽、鳴野棒踊りなどがあります。中でも持田古墳群は、昭和三十六年に「国指定史跡」となり、西都原古墳群、生目古墳群と並び県内でも貴重な存在となっています。また、隣接する高鍋大師とともに「宮崎観光遺産」に指定され、注目を浴びるようになりました。

持田古墳群

「持田古墳群」 持田古墳群は小高い台地であり、広大な民有地の畑の中に点在しています。四世紀から七世紀にかけて築造された豪族の墳墓で、大小合わせて八十五基の古墳があり、台地上には前方後円墳が十基、円墳が七十五基あります。前方後円墳で最大のものは墳長が一二〇メートルの計塚で、県内屈指の規模を誇ります。ほかにも石棺が出土した石舟塚や帆立貝式古墳である亀塚などがあります。広大な台地に、秋はコスモスが愛らしい花を咲かせます。古墳愛好家でなくとも訪れたい別天地です。



古墳祭

『民俗文化』 高鍋の歴史を語る 文化遺産



高鍋神楽

「高鍋神楽」 高鍋神楽は、推定すると平安朝時代から舞われていたとされており、毎年旧高鍋藩内の六社において輪番で奉納されています。厳かな中にも優雅さがあり、神聖な雰囲気醸し出しています。昭和四十四年、宮崎県指定の無形民俗文化財となり、保存会も結成され今日に継承されています。



鳴野棒踊り

「鳴野棒踊り」 江戸時代末期、鳴野地区一帯に不思議な病気がはやり、これを鎮めるために「棒踊り」を奉納したのが始まりとされています。戦後、鳴野の青年グループ「旭念」がこの踊りを再興しました。二十四人が棒を持ち、歌い手の歌に合わせて、引出し、もじり、立棒、鎌木太刀、引込みの六段階を踊り分ける勇壮なものです。家畜の安全祈願、豊作を感謝して奉納され、昭和五十二年に町の無形民俗文化財に指定されています。